

## Ⅱ 主な取組の状況

平成 19 年度は、プランに掲げた計画期間の初年度であり、愛知県食育推進会議は、プランのPRや食育推進大会を開催するなど、まずは県民や関係者の食育についての気運を高めることに努めました。

また、愛知県食育推進会議を構成する県や関係団体等にあっては、プランに基づきそれぞれの分野における食育の推進について積極的に取り組みました。

地域においても、様々な主体による取組が幅広く行われており、県内における食育の広がりや手応えが感じられました。

### 1 食を通じて健康な体をつくるために

#### (1) 県や関係団体等の取組

##### ア バランスのとれた食生活の推進

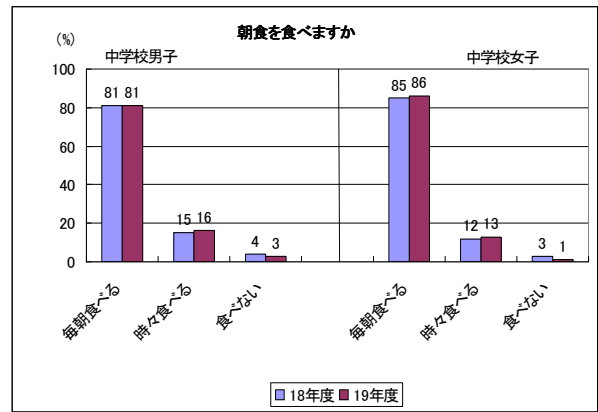
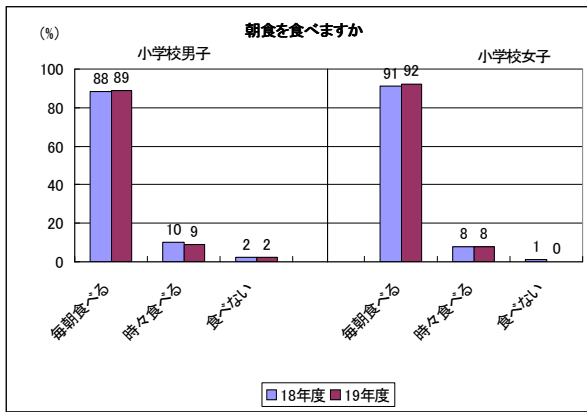
栄養バランスのとれた規則正しい食習慣を身に付けることは、健康な体をつくるための基本であり、バランスのとれた食生活を送るための普及啓発や情報提供などを行いました。



愛知県栄養士会は、名古屋市中区栄のオアシス 21 で月 2 回開かれている朝市に「栄養相談コーナー」を設けて、訪れた人の体脂肪測定や健康に暮らすための食事のとり方などの指導や相談に応じています。

愛知県食生活改善推進員連絡協議会は、「夏休み親子料理研究隊」を開催し、児童とその保護者を対象にして「食事バランスガイド」の普及や調理実習を行いました。

愛知県栄養教諭・学校栄養職員研究協議会は、平成 19 年度に“朝食をしっかりと食べよう！”を統一テーマとして設定し、県内各小中学校等で講演会や料理教室の開催、給食時間等における食に関する指導、家庭への「食育だより」の配布などを行い、児童生徒の朝食をとる習慣や内容の改善に効果がみられました。



愛知県栄養教諭・学校栄養職員研究協議会が平成18年9月と平成19年12月に小学生と中学生を対象に行った「早寝早起き朝ごはん」調査の結果の一部

愛知県学校給食会は、学校給食教室を開催し、学校給食とごはんを中心とした日本型食生活の重要性について児童生徒の保護者の理解を深めるとともに、学校と家庭との連携を図りました。

愛知県社会福祉協議会保育愛知部会は、県内の全保育所長が参加する研究会を開催し、保育所における食育計画の作成と実践が一層進むよう図りました。

県教育委員会は、乳幼児期から小学校低学年までの家庭教育の課題に応えられるテレビ番組「あいちっ子」の中で、バランスのとれた食生活や「早寝 早起き朝ごはん」について取り上げました。また、教職員を対象に「学ぶ食フォーラム」を開催し、「子ども食育発信校」や文部科学省研究委託校の実践発表などを通じて学校全体で取り組む食に関する効果的な授業内容や指導方法について研修しました。

## イ 生活習慣病等の予防対策

がん、高血圧症、高脂血症、糖尿病、歯周病など生活習慣に起因すると考えられる生活習慣病について、食生活の改善や歯の大切さの啓発など食の視点から予防のための取組を進めました。

愛知県医師会は、病気の源は“食”・治すのも“食”、医食同源の考えのもとに、小児期における生活習慣病予防を含めた県民や勤労者向けの講演会の開催、学校保健活動を行いました。一方、医師会の会員に向けても、平成20年4月から実施される特定健康診査・特定保健指導が円滑に進むよう、運動や食事などの健康指導について情報を提供しています。

愛知県歯科医師会は、中日新聞社、愛知県栄養士会、愛知県歯科技工士会、愛知県歯科衛生士会と共催で、後援・協賛企業の協力も得ながら「8020 健口フェスティバル」を開催し、講演会、体験コーナーなどを通して楽しみながら歯への健康意識や食育の大切さを広めました。

愛知県健康づくり振興事業団は、ある企業のメタボリックシンドローム、またはその予備群と診断された人を対象として食事体験型教室（バイキング実習）を実施し、参加者の食生活の改善に効果を上げています。



## ウ 食品表示の適正化や食の安全に関する普及啓発

平成 19 年は、全国的に食品表示にかかる問題が次々と明るみになる中で、消費者の食品の表示や食の安全に対する関心が高まりました。

県は、増加する「食品表示 110 番」へ寄せられた情報に対応するため、立入検査員を増やして確認調査や指導にあたるとともに、事業者に対する研修会も予定より回数を増やして開催しました。また、国の研究機関から名古屋コーチンと表示されながらそれ以外のものが流通しているという発表があり、関係団体等と連携して緊急調査などを実施しました。

愛知県薬剤師会は、愛知県女性薬剤師会との共催によりセミナーを開催し、健康食品に関する正しい理解と知識の普及を図りました。

## (2) 県内における取組事例

保育園では、紙芝居や歌など子どもたちが親しみやすい方法を使って、食事と健康との関係や良く噛む習慣をつけることに取り組まれました。

小学校では、児童が父親の健康を考えて野菜を多く使ったおかずづくりやフォーラムを開催して保護者や地域の人も交えた学習が行われました。

ある企業では、社員食堂を通して社員に啓発を行い、健康管理や食べ残しの減量などについて成果をあげています。

市町においては、保護者が幼児期のおやつや朝ごはんの大切さなどについて学ぶ教室や保健センターにおける中学生を対象とした講座の開催、学校栄養職員が立てた年間計画に基づく活動、キャラクターを使った啓発及び料理コンテストの開催などが行われました。

また、大学の研究室と小学校とが連携して、家庭科の授業を活用した食に関する出前講座の実施や「食事バランスガイド」への理解とその普及を促進するための取組が行われました。

なお、農林水産省が提唱して実施された「地域に根ざした食育コンクール 2007」で県立豊橋商業高等学校が「高校生のための健康弁当」で特別賞を受賞しました。栄養の偏りがちな高校生の食生活の実態調査や地元豊橋の農業の状況調査などに基づき、地域の人や業者等の協力により栄養バランスがよく、地元食材を使用した弁当を開発し、商品化したことが評価されました。